［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価結果概要表

作成日　平成 19年 9月 8日

【評価実施概要】

事業所番号	270301641
法人名	株式会社東建設計
事業所名	グループホーム音寿園
所在地 (電話番号)	〒0310071　青森県八戸市沼館一丁目１０－１３ (電　話) 0178-73-2515

評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822　青森県青森市中央3丁目20-30　県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 19年 7月 23日	評価確定日	平成 19年 9月 8日

【情報提供票より】(平成 19年 7月 6日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成　16年　2月　1日	
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計　18　人
職員数	21　人	常勤　21 人, 非常勤　人, 常勤換算　10.53人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2 階建ての　階 ～　1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	25,005　円	その他の経費 (月額)	12,000～16,020　円
敷　金	有 (　円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (　円) 無	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食　円	昼食	円
	夕食　円	おやつ	円
	または1日当たり　1,000　円		

(4) 利用者の概要 (7月 6日現在)

利用者人数		18 名	男性	5 名	女性　13 名
要介護1		2	名	要介護2	6　名
要介護3		8	名	要介護4	2　名
要介護5		0	名	要支援2	0　名
年齢	平均	83.6 歳	最低	68 歳	最高　97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	八戸城北病院・湊病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

立地条件に恵まれており、工場と大型商店が混在する、それでいて閑静な佇まいのグループホームである。外出や買物に出かける際も5分位で、活動で恵まれた環境である。管理者はグループホームの必要性を認識しており、情報収集や研修を重ねサービスの向上に努めている。さらに、音楽療法を取り入れ利用者と職員の楽しみの一つとなっている。また、運営理念『生き生きと穏やかに』をモットーとし、一人ひとりの思いや希望を受け止める事を何よりも大切にしながら、日々のケアがなされているグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目：外部4) 服薬の支援について、職員の利用者の状態把握への取り組み、投薬のあり方を検討し直し、職員2人で確認し合う体勢づくりをしている。職員研修については、内部・外部研修へ参加されており、研修報告や伝達のあり方が周知されていた。 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目：外部4) 自己評価は管理者が行っており、他職員は自己評価を閲覧していないが、外部評価を得て職員に公表し、一年のケアサービスの見直しの機会と捉えている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目：外部4, 5, 6) ホームの取り組みについて毎回説明し理解していただいている。町内への行事参加や合同での行事を取り入れている。また、勉強会 (認知症について) も開催された。今後の取り組みとして、災害時の協力体制を整備、自己評価及び外部評価の結果公表をし、地域の理解と支援を得、そこでの意見をサービス向上に活かされている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目：外部10, 11) ご家族へのアンケート調査を配布したり、面会時や電話連絡の際は、コミュニケーションを深めている。さらに運営推進会議への家族参加もあり、意見や苦情等を表せる機会作りもしている。また、出された意見や要望は会議にて話し合い、反映されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目：外部3) 自治会へ加入されており、地域の方々へ理解していただけるよう広報誌を発行したり、町内の行事へ積極的に参加もしている。老人クラブへの参加も2名できている。ホームの活動を紹介し、音楽ライブを見にこられたり、行事の際は町内からボランティアも来られ交流している。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、地域生活の継続や地域との交流を謳った理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、定期的に会議にて理念を唱え、日々のケアの実践に活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域の一員として自治会へ加入し、地域活動の情報収集に努めており、また、交流をも出来るよう、ホームの情報も自治会へ知らせ、老人クラブへの参加や地域のボランティア、地域住民の行き来が出来ている。		

外部評価	自己評価	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と一部の職員のみで評価事業に取り組んでおり、全職員の共有化が図られていない。	○	全職員で評価の意義を理解する機会を設け、サービスの質の確保や向上を図ることを期待したい。
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、会議の実施がされており、ホームの検討事項及び経過報告をすると共に、地域の協力を得ながらサービスの向上へ取り組んでいる。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、運営に関する相談を持ちかけたり、地域包括支援センターより研修ビデオを借りるなどし、ともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修への参加はしているが、実際の相談、対応がない為全職員の理解は不足している。	○	勉強会の開催などにより、更なる職員の理解を深め、必要時全職員が対応できる体制の構築を目指す事を期待したい。
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者は、虐待防止や抑制防止の外部研修を受け、職員への説明し、理解を深めている。	○	職員間で啓蒙し合い、防止に努めているが、もう一歩進み、事業所内でのルールやマニュアル作りにも取り組んでみてはどうか。

外部評価	自己評価	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に丁寧に時間をかけ説明し同意を得ている。特にリスクや状態の変化に対する対応も説明し同意を得ている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、写真付たよりにて金銭報告及び現状報告をし、必要時は電話連絡もしている。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケート調査を実施し、家族には運営推進会議時に意見を頂けるよう、話し合う機会を設け、サービスに反映させていく取り組みがなされていた。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員によるケアを提供している。離職がやむを得ない場合は、利用者が大きなダメージを受けられないよう、変らぬ対応が出来るように努めている。		

外部評価	自己評価	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5．人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外で開催される研修には、なるべく多くの職員が参加できるよう配慮がなされている。研修報告会も月2回実施しており、職員間で情報交換をおこなっている。また、報告書は閲覧可能な状態にて、職員のサインも周知徹底が図られている。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は市グループホーム協会の活動にも参加されており、管理者同士の情報交換や経験をケアに活かし、質の向上に努めているが、職員が同業者との交流する機会を実施できるまで至っていない。	○	職員の他グループホームへの見学や相互研修会での事例検討会を実施することで、より一層サービスの質の向上を期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の納得を得ての利用は少ないため、急な環境変化とならないよう、ご家族の協力を得て馴染みの物を持ってきて頂き、安心感を持ってもらうような対応を実施している。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する、される側という意識を持たず、利用者の歩まれてきた人生経験や得意とするものを大切にし、を和やかに生活できるような場面作りが感じられる。		

外部評価	自己評価	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声掛け把握に努めている。言葉や表情、行動の真意を推し測り、確認を取り、生活を支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるよう、本人や家族の意向が盛り込まれてあり、日々の生活記録を重視し、評価、介護計画の作成に活かしている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員が情報を確認し、介護計画は毎月評価するとともに、職員が記録する利用者の状態変化や状況、家族・本人の要望に応じて見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じて、暮らしの継続に必要な外出支援や通院支援等に柔軟に対応し、個々の満足を高める努力をしている。		

外部評価	自己評価	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。また、受診や通院は基本的に家族となっているが、不可能な時には職員が代行するようにしており、利用契約時に説明し、同意を得ている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携加算申請時は、医師、家族と相談することをとりきめている。	○	終末に対する対応指針を定め、個々の安心と納得のいく終末の対応を検討していくことに期待したい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** (1) 一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	会議時に職員へ意識付けさせ、日々の関わりに関しても職員間で振り返り、利用者の尊厳、個人情報の保護に努めている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課に縛られることなく、個々の体調や希望、気持ちを尊重した臨機応変な個別支援を実施している。		

外部評価	自己評価	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態に応じ、食材の皮むきや盛り付け、片付け、茶碗拭きを共に行っている。職員と利用者が一緒に食事をとり和やかな雰囲気であり、さりげない声がけやサポートもされていた。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人のこれまでの生活習慣や要望を聞き入れ、また、仲の良い方同士、一緒に入り安心感をもってもらう工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりが何らかの役割を持って意欲的に活動できるよう、声掛けや得意分野を広げて、張り合いや喜びのある生活への配慮がなされていた。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個々のニーズに応じて、心身の活性につながるよう日常的に散歩、買物、ドライブ等に出掛けている。		

外部評価	自己評価	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒防止のため家族の了解を得て、車いすへの補助ベルトを使用した時期があった。現在は使用されていない。	○	身体拘束に関する勉強会を実施し、事業所内でのルールやマニュアル作りに期待したい。
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	園前が大型車が多いため、玄関はプッシュ式の自動ドアだが、利用者の状態をきめ細かくキャッチし、さりげなく声掛けや対応がされている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回防災訓練を実施している。運営推進会議で地域の協力体制も出来つつある。	○	地域の人々と日頃より話し合いや訓練を行う取り組みと、緊急時対応マニュアルの見直しにも期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分補給量を個々に記録されており、一人ひとりの摂取状況が把握できている。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	感染症マニュアルが作成されており、消毒方法は徹底されている。	○	季節の感染発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時応じた学習（予防・対策）の機会の確保と、それに合わせたマニュアルの見直し検討といった取り組みにも期待したい。

外部評価	自己評価	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **(1) 居心地のよい環境づくり**					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって使いやすい馴染みの物を設け、ソファー、こたつ、ベランダにイスを置き、くつろげるスペースをつくり、居心地の良い空間をつくっている。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのを持ち込んで頂けるよう、ご家族への説明も出来ており、家電製品等が持ち込まれており、その人らしい個性が感じられる環境ができている。		

※ ▒ は、重点項目。